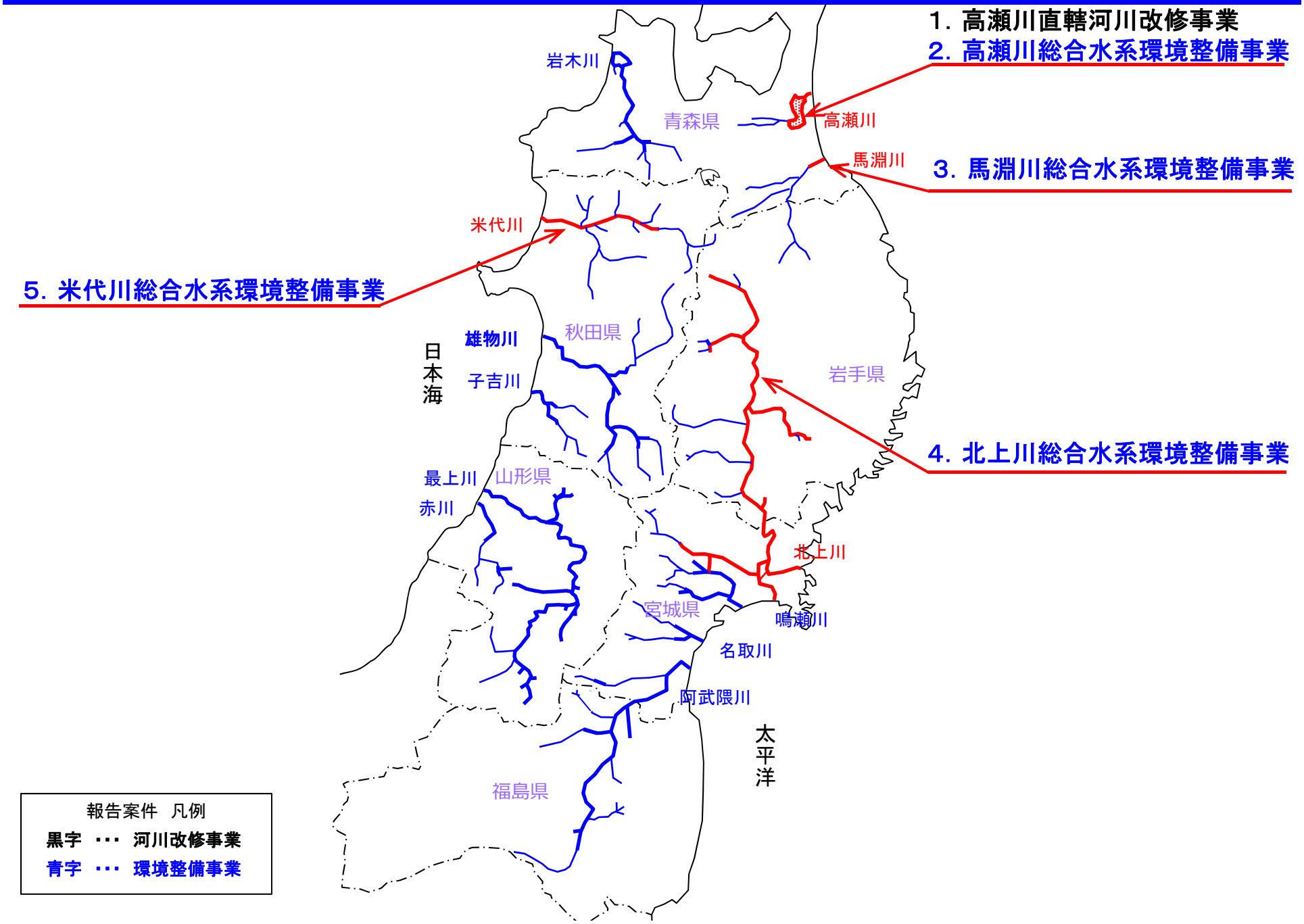
資料　８－１

河川事業に関する報告事項

平成２８年１１月２９日

国土交通省　東北地方整備局

河川事業に関する報告事業　位置図



河川整備学識者懇談会等における事業結果一覧【報告事項】

【再評価の審議結果】

N0.	事業名	委員会・懇談会名	事業期間	総事業費（億円）	費用対効果分析（B/C）	主な意見	審議結果
1	高瀬川直轄河川改修事業	○高瀬川河川整備委員会 （平成28年10月31日　開催）	H18～H47	59	1.7 【参考】 残事業B/C 1.2	・河口閉塞時の土砂撤去等、引き続き適切な維持管理に努めていただきたい。	○事業の継続は妥当と判断する。
2	高瀬川総合水系環境整備事業	○高瀬川河川整備委員会 （平成28年10月31日　開催）	H19～H45	58.7	3.1 【参考】 残事業B/C 4.7	・水環境整備は、実施後の維持管理が重要。維持管理のしやすさを含めて整備の方法を考えていく必要がある。	○事業の継続は妥当と判断する。
3	馬淵川総合水系環境整備事業	○馬淵川水系河川整備学識者懇談会 （平成28年9月28日　開催）	H17～H33	8.1	6.4 【参考】 残事業B/C 46.8	・八戸地区水辺の学校は、子供が水辺で安全に自然観察ができる貴重な場所であるため、引き続き適切に維持管理いただきたい。	○事業の継続は妥当と判断する。
4	北上川総合水系環境整備事業	○北上川水系河川整備学識者懇談会 （平成28年10月27日　開催）	H4～H37	101.2	2.9 【参考】 残事業B/C 9.9	・河川は数年に一度あふれるとの認識のもと、整備に当たっては、治水・利水・環境の調和に対して地域の合意形成を得つつ進めることが重要。	○事業の継続は妥当と判断する。
5	米代川総合水系環境整備事業	○米代川水系河川整備学識者懇談会 （平成28年11月7日　開催）	H19～H36	3	2.4 【参考】 残事業B/C 3.7	・高速道路の整備により通過型の地域になる懸念もあることから、高速道利用者が下りたくなるような工夫が必要。（二ツ井きみまち地区かわづくり：高速道IC及び道の駅と一体的に整備）	○事業の継続は妥当と判断する。

河川事業に関する再評価結果一覧【報告事項】

【公共事業関係費】
【河川事業】
（直轄事業）

No.	事業名 事業主体	該当 基準	総事業費 （億円）	費用便益分析（社会的割引率等考慮後） 貨幣換算した便益：B（億円） 便益の内訳及び主な根拠	費用：C （億円）	B／C	貨幣換算が困難な 効果等による評価	再評価の視点 （投資効果等の事業の必要性、事業の進捗見込み、コスト縮減等）	審議結果	備考
1	高瀬川直轄 河川改修事業 東北地方整備局	再評価後 3年	59	100 【内訳】 被害防止便益：97.4億円 残存価値：2.4億円 【主な根拠】 年平均浸水軽減戸数：294戸 年平均浸水軽減面積：1,108ha	58	1.7 【参考】 残事業 B／C 1.2	・高瀬川流域では、過去に昭和33年9月洪水により甚大な浸水被害が発生している。近年では、平成18年10月、平成19年11月洪水により、被害が発生している。（浸水等被害戸数：昭和33年9月2,952戸、平成18年10月9戸、平成19年11月3戸） ・戦後最大規模の洪水である昭和33年9月洪水と同等規模の洪水発生を想定した場合の想定氾濫区域は約1,318ha、区域内世帯数は約294世帯に達する。 ・整備計画規模の洪水が発生した場合、浸水区域人口は約900人、孤立者数は、避難率0%で約700人、40%で約420人、80%で約140人と想定される。 ・このため、浸水被害の早期解消が必要である。	①事業の必要性に関する視点（事業の投資効果） ・流域内の市町村の総人口はH12年をピークに緩やかな減少傾向で推移しており、H27年時点で約18万人。 ・農業産出額はH15年まで緩やかな減少傾向、その後は横ばいで推移しており、H26年で約7.4百億円（青森県内合計の約26%）。 ・製造品出荷額はH17年まで増加傾向、その後H18年より六ケ所村にて六ケ所村再処理工場がアクティブ試験を開始し、急激に増加。平成19年に一旦減少した後、横ばいで推移しており、H26年で46.8百億円（青森県内合計の約29%）。 ・高瀬川の漁獲量は、平成2年をピークに平成22年まで減少傾向、その後横ばいに推移しており、平成27年で約2,900t（青森県内合計の約48%）。 ・高瀬川水系における治水安全度は未だ十分ではなく、地域の安全・安心のために今後、高瀬川放水路拡幅の事業を進め治水安全度を向上させることが必要。 ②事業の進捗の見込みの視点 ・進捗率は事業費ベースで56%　完成予定はH47年 ③コスト縮減や代替案立案等の可能性の視点 ・放水路拡幅整備に伴う掘削土については、小川原湖の環境整備事業への供給等の有効活用を図り、コスト縮減について努める。 ・堤防除草等により発生する刈り草は、地域の方々へ提供するなど処分費の縮減に努める。 ・代替案立案の可能性については、「堤防整備と放流量拡充対策（放水路拡幅整備）案」と「堤防整備と流入量抑制対策（上流ダム・遊水地整備）案」を総合的に比較した結果、社会的影響、環境への影響、事業費、事業期間等を考慮し、現計画（堤防整備と放流量拡充対策（放水路拡幅整備）案）が最も効率的と判断している。	事業継続	
2	高瀬川総合水系環境整備事業 東北地方整備局	再評価後 3年	58.7	158.7 【内訳】 水環境の改善、水辺整備に伴う河川利用推進の便益 ：158.6億円 残存価値 ：0.1億円 【主な根拠】 （水環境） 支払い意思額 ：702円／世帯／月 受益世帯数 ：220,508世帯 （水辺整備） 年間利用増加数 ：9.8千人	50.9	3.1 【参考】 残事業 B／C 4.7	・小川原湖は、湖水浴場や湖水まつりなど水辺や水面を利用したレジャーや自然体験活動の場となっており、水辺整備により各種イベント等に活用され、地域活性化、観光振興に寄与するとともに、子供たちの総合学習（環境学習）の場として活用され、河川愛護意識の啓発が図られる。 ・小川原湖は日本の主要な汽水湖の中で最も塩分濃度が低い微汽水性の湖である。汽水性及び淡水性の湖岸植生や沈水植物が多く生育し貴重な生物環境を有しており、水環境整備により多様な生物の生息・生育・繁殖の場となる河川環境の保全が図られる。	① 事業の必要性に関する視点 ・小川原湖は、湖水浴場やシジミの遊漁場、ウインドサーフィン等水辺や水面を利用したレジャーや自然体験活動の場として重要な空間となっている。 ・小川原湖の生態系の保全、利活用の維持・向上のため、環境基準（COD3.0mg/L）を大きく超過している水質の改善が必要である。 ② 事業の進捗の見込みの視点 ・進捗率は事業費ベースで34%　完成予定はH45年 ③ コスト縮減の視点 ・覆砂・養浜工に使用する砂を購入から、河川改修事業の放水路拡幅で発生する掘削土の利活用に変更することでコスト縮減を図る。	事業継続	
3	馬淵川総合水系環境整備事業 東北地方整備局	再評価後 3年	8.1	63.8 【内訳】 自然環境の再生、水辺整備に伴う河川利用推進の便益 ：63.3億円 残存価値 ：0.5億円 【主な根拠】 （自然再生） 支払い意思額 ：271円／世帯／月 受益世帯数 ：87,040世帯 （水辺整備） 年間利用増加数 ：16千人	10	6.4 【参考】 残事業 B／C 46.8	・馬淵川では、川と海を行き来する多様な魚類が確認されており、自然再生による魚道の改良に伴い、魚類等の遡上・降下環境が確保されるとともに、水辺整備により、子どもたちの総合学習（環境学習）の場として活用され、河川愛護意識の啓発が図られる。	①事業の必要性に関する視点 ・馬淵川は、釣りや散策による利用をはじめ、高水敷では野球場や各種運動広場などの整備が行われ、スポーツ、レクリエーション、環境学習会などに利用されており、市民の交流やふれあいの場、自然体験の場として重要な空間となっている。 ・また、川と海を行き来するサケやアユ、ワカサギなどのほか、重要種に指定されるウツセミカジカやタナゴなど、多様な魚類が確認されているため、生息・生育環境の連続性を確保する必要がある。 ②事業の進捗の見込みの視点 ・進捗率は事業費ベースで91%　完成予定はH33年 ③コスト縮減の視点 ・整備に伴う現地発生土砂を築堤や仮設工事に利用しているほか、維持管理においても地域住民により清掃活動等が行われている。	事業継続	

河川事業に関する再評価結果一覧【報告事項】

【公共事業関係費】
【河川事業】
（直轄事業）

No.	事業名 事業主体	該当 基準	総事業費 （億円）	費用便益分析（社会的割引率等考慮後） 貨幣換算した便益：B（億円） 便益の内訳及び主な根拠		費用：C （億円）	B／C	貨幣換算が困難な 効果等による評価	再評価の視点 （投資効果等の事業の必要性、事業の進捗見込み、コスト縮減等）	審議結果	備考
4	北上川総合水系環境整備事業 東北地方整備局	再評価後 3年	101.2	490	【内訳】 自然環境の再生、水辺整備に伴う河川利用推進の便益 ：488.4億円 残存価値 ：1.6億円 【主な根拠】 （自然再生） ・上流部 支払い意思額 ：326円／月・世帯 受益世帯数 ：57,474世帯 ・下流部 支払い意思額 ：276円／月・世帯 受益世帯数 ：63,899世帯 （水辺整備） 年間利用増加数 ：1,074千人	167.1	2.9 【参考】 残事業 B／C 9.9	・北上川は、沿川地域の発展を支えてきた歴史、美しい自然や景観、開放的なオープンスペース、清冽な流れなどの資源があり、水辺整備や自然再生により、様々なイベントが開催されるようになり、人々の交流の場としての活用機会が増加し地域活性化に寄与するとともに、観光資源としての有効活用が図られるほか、子供たちの総合学習（環境学習）の場として活用され、河川愛護意識の啓発が図られる。	①事業の必要性等に関する視点 ・水辺整備事業は、河川整備計画の基本理念等を踏まえ、河川空間の適正な保全と利用を図るため計画的に整備を進めてきた。整備済箇所では利用者が増加するなど事業効果が認められる。整備中箇所の社会情勢等にも変化がないことから、効果発現に向けて事業を継続していくことが必要である。 ・自然再生事業では、レキ河原の再生によりレキ河原に依存する生物の保全が確認され、魚道改良ではこれまで遡上の確認できなかった魚種が確認されるなど、事業の効果が認められており、今後も事業計画に基づいた整備を継続することが必要である。 ②事業の進捗の見込の視点 ・進捗率は事業費ベースで81%　完成予定はH37年 ③コスト縮減の視点 ・整備に使用する土砂を他事業の掘削により発生する土砂を利用している他、維持管理においても地域住民により清掃活動等が行われている。	事業継続	
5	米代川総合水系環境整備事業 東北地方整備局	再評価後 3年	3	9.5	【内訳】 水辺整備に伴う河川利用推進の便益 ：9.5億円 残存価値 ：0.02億円 【主な根拠】 （水辺整備） 年間利用増加数 ：66,324人	3.9	2.4 【参考】 残事業 B／C 3.7	・米代川流域には、世界遺産に登録されている「白神山地」をはじめ、日本最大規模のクロマツ林「風の松原」、明治天皇ゆかりの「きみまち阪県立自然公園」などの景勝地が分布しており、、かつて舟運がもたらした歴史・文化が残されている。 ・「かわ」と「まち」を一体として捉えた水辺整備により、様々なイベントが開催されるようになり、人々の交流の場としての活用機会が増加し、地域活性化に寄与するとともに、観光資源としての有効活用が図られる。	①事業の必要性等に関する視点 ・整備済み箇所については、地元自治体やNPO等が主催するイベントなども活用され、利用者が増加しており事業効果が認められる。整備中、整備を予定している箇所においても、地元自治体等からは、地域活性化の核となるとともに、より良い河川環境を創出する本事業の実施に対して要望活動が行われるなど、地域活性化に寄与することが期待されていることから、今後も事業計画に基づいた整備を実施することが必要である。 ②事業の進捗の見込の視点 ・進捗率は事業費ベースで58%　完成予定はH36年 ③コスト縮減の視点 ・河道掘削の土砂を高水敷整正に流用することでコスト縮減に努めているほか、維持管理においても地域の団体により清掃活動が行われている。	事業継続	

資料　８－２

河川事業に関する報告事項
（参考資料）

平成２８年１１月２９日

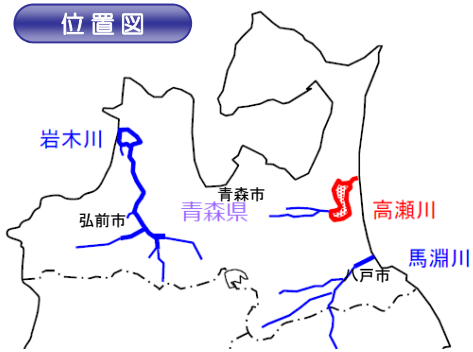
国土交通省　東北地方整備局

1. 高瀬川直轄河川改修事業【事業概要】

- 高瀬川は、過去に昭和33年9月洪水、昭和41年6月洪水、昭和43年8月洪水により甚大な浸水被害が発生している。近年においても平成18年10月洪水により被害が発生している。
- 平成17年度に策定した河川整備計画では、『河川整備基本方針で定めた計画規模の洪水が発生しても、家屋浸水被害を防止するとともに、水田等農地についても浸水被害の軽減に努める』ことを目標としている。

●事業個所　：　自：青森県三沢市
　　：　至：青森県東北町
●事業期間　：　平成18年度～平成47年度
●全体事業費　：　約59億円

位置図



H18年出水状況


三沢市早稲田地区の浸水の様子


東北町栄地区、旭地区の浸水の様子

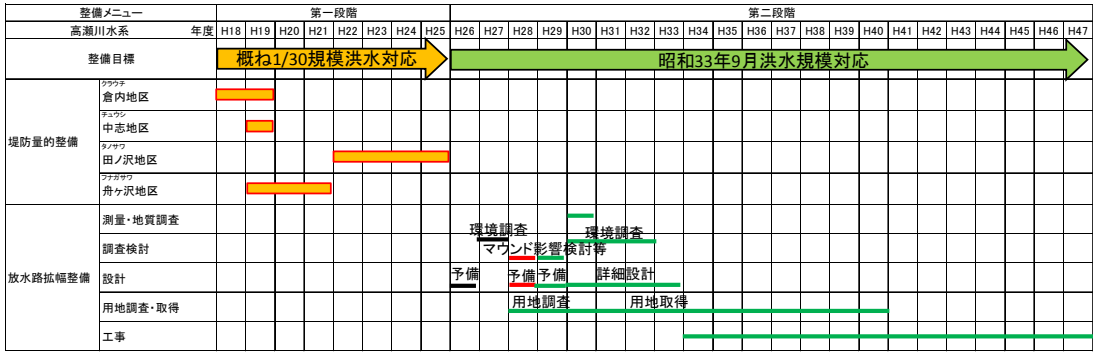
既往洪水による最高水位記録（小川原湖総合観測所）

順位	発生年月日	要因	湖水位	流域平均2日雨量
①	昭和33年9月26日	台風22号	TP+2.79m	210mm
②	平成18年10月6日	低気圧	TP+1.52m	173mm
③	昭和41年6月27日	台風4号	TP+1.37m	142mm
④	平成28年8月31日	台風10号	TP+1.36m	147mm
⑤	昭和43年8月20日	低気圧	TP+1.31m	156mm
⑥	平成10年9月30日	台風9号	TP+1.26m	138mm
⑦	平成23年9月22日	前線及び台風15号	TP+1.25m	128mm

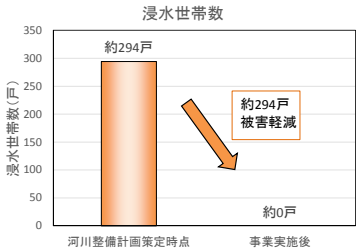
※昭和33年、41年、43年は沼崎観測所

今後の事業スケジュール

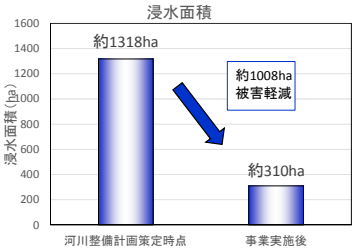
30年間における事業スケジュール



事業効果

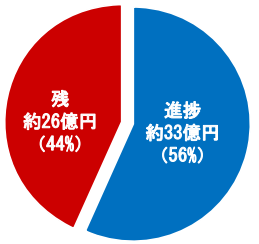


河川整備計画前後の浸水世帯数



河川整備計画前後の浸水想定面積

河川整備計画事業費

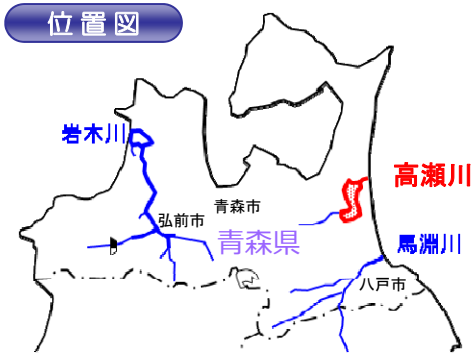


約59億円（全体）
※進捗率（%）：事業費ベース
（H27年度末時点）

2. 高瀬川総合水系環境整備事業 【事業概要】

- 小川原湖は、湖水浴場やシジミの遊漁場、ウインドサーフィン等水辺や水面を利用したレジャーや自然体験活動の場として多くの利用者に親しまれており、散策路や高水敷整正等の整備により、水辺利用と親水性の向上を図るものである。
- 小川原湖の水質は悪化傾向にあり小川原湖の水環境に影響が出始めていることから、水環境改善の対策を行うものである。対策については、水質改善効果の大きい塩水対策、覆砂、ウェットランド、養浜工を実施するものである。

位置図



●事業個所　：　青森県三沢市、東北町、六ヶ所村

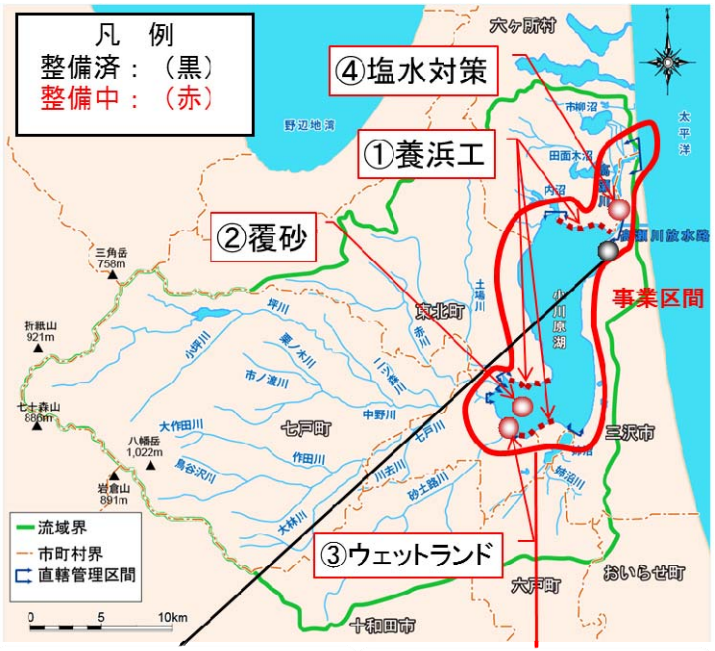
●事業期間　：　平成19年度～平成45年度

●全体事業費：　約58.7億円

今後の事業スケジュール

	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34	H35	H36	H37	H38	H39	H40	H41	H42	H43	H44	H45
【水辺整備】小川原湖（仏沼地区）水辺広場	■																										
【水環境整備】小川原湖		■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■

平面図

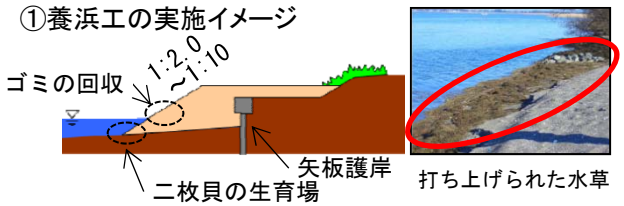


①仏沼地区（水辺整備）　②小川原湖（水環境）

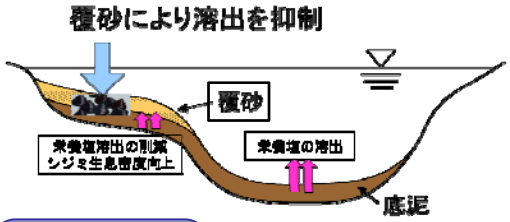
■小川原湖【水環境整備／整備中】

①養浜工　②覆砂　③ウェットランド　④塩水対策

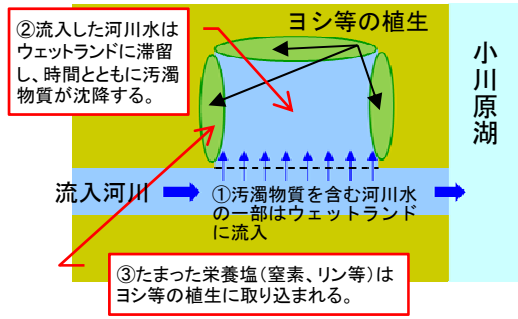
①養浜工の実施イメージ



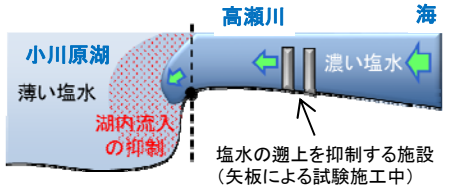
②覆砂工の実施イメージ



③ウェットランドの実施イメージ



④塩水対策の実施イメージ



整備済事業

【水辺整備】
・仏沼地区
（H19～H20）





事業進捗

(1) 全体事業費：約 58.7 億円
(2) 整備済み事業費：約 19.9 億円
(3) 進捗率：約 34 %
(4) 残事業費：約 38.8 億円

3. 馬淵川総合水系環境整備事業 【事業概要】

- 当該整備地区はＪＲ本八戸駅にも近い市街地に位置し、スポーツ、レクリエーション、環境学習会などに利用され、市民の交流やふれあいの場、自然体験の場として重要な空間となっていることから、河川空間の適正な利用の推進を図るものである。
- 馬淵川は、川と海を行き来するアユやワカサギ、重要種に指定されウツセミカジカやタナゴなどが生息し、また、多くのサケが遡上する貴重な河川であるが、馬淵大堰の魚道は遡上機能が十分ではなく、魚類の遡上・降下に支障を与えている。
- このため、左岸魚道についてはせせらぎ式魚道の新設（H21完成）や既設魚道を呼び水水路に改良（H21完成）を行っており、右岸魚道についても多様な魚種に対応した魚道改良（H28整備予定）を図り、遡上・生息環境の向上を目指すものである。

位置図



●事 業 箇 所 ： 青森県八戸市

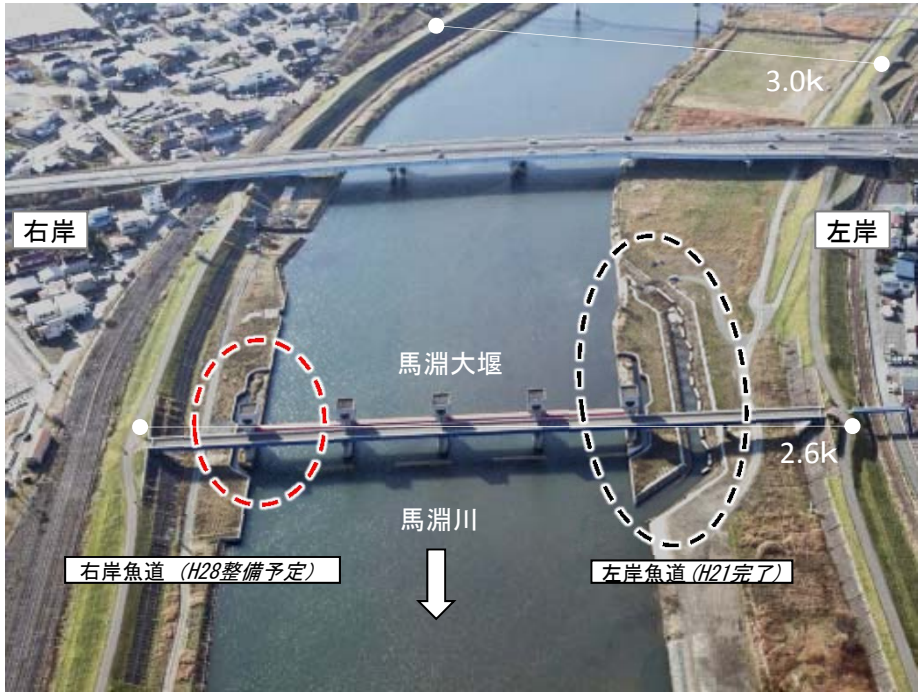
●事 業 期 間 ： 平成17年度～平成33年度

●全体事業費 ： 約8.1億円

今後の事業スケジュール

事業内容	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32	H33
【水辺整備】 ・八戸地区水辺の楽校	■	■															
【自然再生】 ・魚がすみやすい川づくり		■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■

自然再生



左岸魚道（H21完了）※H23災害復旧

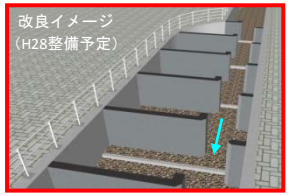


▲ 新たに設置したせせらぎ式魚道



▲ 既設魚道を呼び水水路へ改良

右岸魚道（H28整備予定）



▲ 右岸既設魚道の改良イメージ

整備済事業

【水辺整備】
・八戸地区水辺の楽校[H17～H18]







事業進捗

(1)全 体 事 業 費：約 8.1 億円
(2)整備済み事業費：約 7.4 億円
(3)進 捗 率：約 91 %
(4)残 事 業 費：約 0.7 億円

4. 北上川総合水系環境整備事業 【事業概要】

位置図



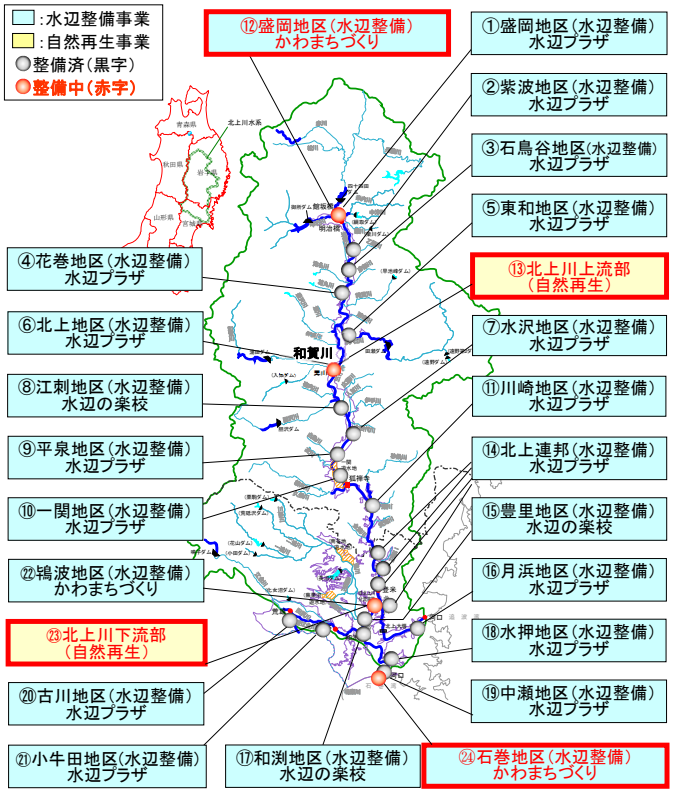
- 北上川では、河川にまつわる地域の歴史・文化等の特色を活かした交流拠点を整備し、それらを結ぶネットワークを構築する「北上川歴史回廊」構想がとりまとめられており、河川の美しい自然や景観、オープンスペース等は、地域から観光資源としての有効活用が求められていることから、河川空間の適正な保全と利用の推進を図ります。
- また、自然再生事業では、上流部の北上川・和賀川合流地点において、かつてのレキ河原の清冽な流れや良好な生態系を保全・再生するとともに、下流部の鴇波(ときなみ)洗堰、脇谷(わきや)洗堰における、アユ、サケ等の回遊魚をはじめとした魚類の遡上環境について魚道の新設や閘門操作により改善を図ります。

●事 業 箇 所： 岩手県盛岡市～宮城県石巻市
●事 業 期 間： 平成4年度～平成37年度
●全体事業費 ： 約101.2億円

今後の事業スケジュール

事業内容	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34	H35	H36	H37
【水辺整備】																			
・盛岡地区かわまちづくり			■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
・石巻地区かわまちづくり								■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
【自然再生】																			
・北上川上流部自然再生	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■			
・北上川下流部自然再生	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■		

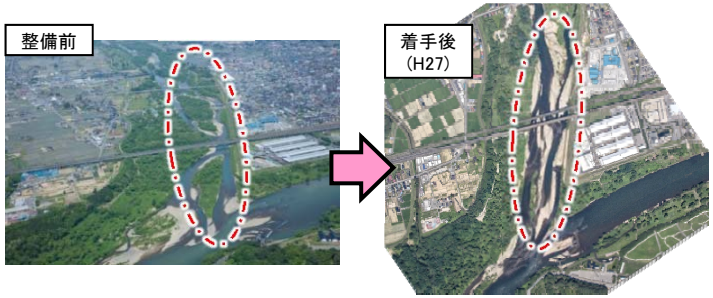
平面図



■かわまちづくり整備イメージ



■レキ川原の保全・再生（北上川上流部）



■遡上環境の改善（北上川下流部）



整備済事業

【水辺整備】
●水辺プラザ、水辺の楽校など他20地区
[H4～H21]



整備済箇所の利用状況
（和渕地区水辺の楽校）

事業進捗

(1)全 体 事 業 費：約 101.2 億円
(2)整備済み事業費：約 81.6 億円
(3)進 捗 率：約 80.7 %
(4)残 事 業 費：約 19.5 億円

5. 米代川総合水系環境整備事業 【事業概要】

- 米代川の豊かでうるおいのある河川空間の創造を目的に、河川の自然環境の保全、河川利用の促進等を図るものである。
- 二ツ井きみまち地区は、良好な水辺空間や遊歩道等の整備を行っており川との関わりが深い地区である。
- 高規格道路の「小繋ＩＣ(仮)」や「道の駅ふたつい」、「河川防災ステーション」と一体的な水辺空間を整備することにより、観光、防災、地域振興が連携した拠点づくりを実施するものである。

●事 業 箇 所：秋田県大館市～秋田県能代市
●事 業 期 間：平成19年度～平成36年度
●全体事業費：約3.0億円

位置図



今後の事業スケジュール

事業内容	H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34	H35	H36
【水辺整備】											
根下戸地区かわまちづくり	■	■	■	■	■	■	■	■			
二ツ井きみまち地区かわまちづくり				■	■	■	■	■	■	■	■

平面図



整備済事業

【水辺整備】
・扇田地区河川環境整備事業 [H19～H20]

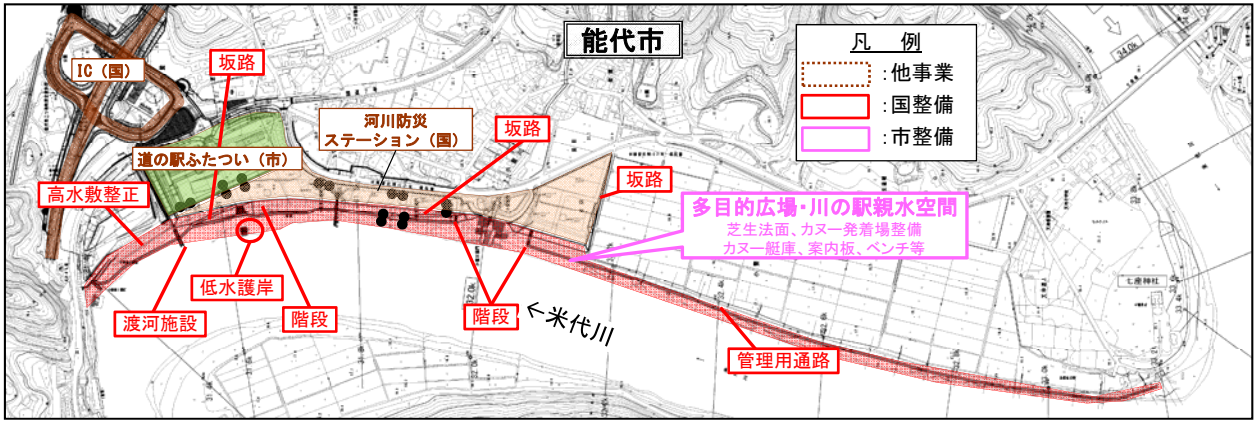


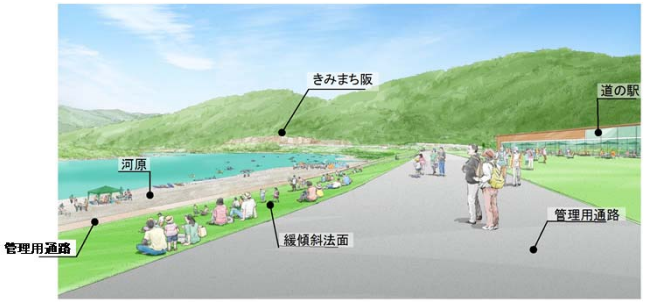
扇田地区利用状況

事業進捗

(1)全 体 事 業 費：約 3.0 億円
(2)整備済み事業費：約 1.8 億円
(3)進 捗 率：約 58 %
(4)残 事 業 費：約 1.3 億円

平面図「二ツ井きみまち地区かわまちづくり」





▲二ツ井きみまち地区整備イメージ

河川事業の再評価における事業評価監視委員会への報告根拠について

資料　8－3

No.	評価別	対象事業	学識経験者等から構成される委員会で審議を行う		審議結果を事業評価監視委員会に報告する	
			根　拠		根　拠	
1	再評価	・高瀬川直轄河川改修事業	『国土交通省所管公共事業の再評価実施要領』 第6の6 H23.4.1改定	河川事業、ダム事業については、河川整備計画策定後、計画内容の点検のために学識経験者等から構成される委員会等が設置されている場合は、事業評価監視委員会に代えて当該委員会で審議を行うものとする。	『河川及びダム事業の再評価実施要領細目』 第6 H22.4.1改定	実施要領第6の6の規定に基づいて審議が行われた場合には、その結果を事業評価監視委員会に報告するものとする。
2	再評価	・高瀬川総合水系環境整備事業				
3	再評価	・馬淵川総合水系環境整備事業				
4	再評価	・北上川総合水系環境整備事業				
5	再評価	・米代川総合水系環境整備事業				